(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2019-206830
(P2019-206830A)
(43)公開日　令和1年12月5日(2019.12.5)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
E04H 17/16	(2006.01)	E04H	17/16	101	2E142

審査請求 未請求　請求項の数 5　OL　（全 11 頁）

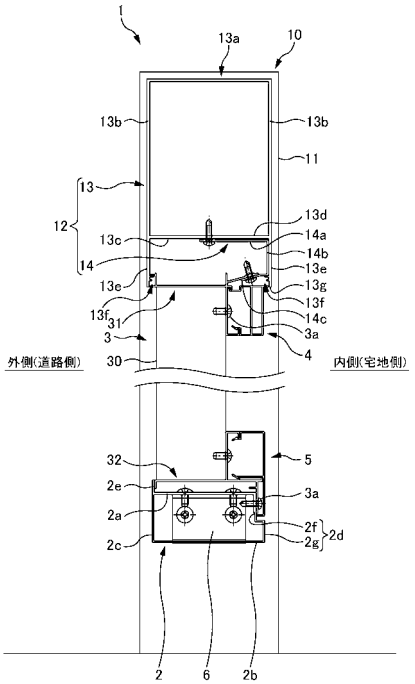
(21)出願番号　特願2018-102174 (P2018-102174)
(22)出願日　平成30年5月29日 (2018.5.29)

(71)出願人　390005267
ＹＫＫ　ＡＰ株式会社
東京都千代田区神田和泉町１番地
(74)代理人　110000176
一色国際特許業務法人
(72)発明者　山鹿　栄治
東京都千代田区神田和泉町１番地　ＹＫＫ　ＡＰ株式会社内
(72)発明者　島田　空
東京都千代田区神田和泉町１番地　ＹＫＫ　ＡＰ株式会社内
(72)発明者　水野　節
東京都千代田区神田和泉町１番地　ＹＫＫ　ＡＰ株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】仕切り構造体

(57)【要約】
【課題】意匠性を損なうことなく、パネル体が外れ難い仕切り構造体を提供する。
【解決手段】上下に間隔を隔てて設けられている上横材及び下横材と、前記上横材と前記下横材との間に配置され、空間を一方側と他方側とに仕切る仕切り部材、及び、前記仕切り部材が固定されている上桟及び下桟を備えたパネル体と、を有し、前記上横材は、前記一方側に設けられ前記他方側に向かって低くなる傾斜をなして延出された上横材側延出部を有し、前記上桟は、前記一方側に設けられ当該一方側に向かって高くなる傾斜をなして延出された上桟側延出部を有し、前記上桟側延出部は、前記上横材側延出部と重なり、延出部固定具により接合されている。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
上下に間隔を隔てて設けられている上横材及び下横材と、
前記上横材と前記下横材との間に配置され、空間を一方側と他方側とに仕切る仕切り部材、及び、前記仕切り部材が固定されている上桟及び下桟を備えたパネル体と、
を有し、
前記上横材は、前記一方側に設けられ前記他方側に向かって低くなる傾斜をなして延出された上横材側延出部を有し、
前記上桟は、前記一方側に設けられ当該一方側に向かって高くなる傾斜をなして延出された上桟側延出部を有し、
前記上桟側延出部は、前記上横材側延出部と重なり、延出部固定具により接合されていることを特徴とする仕切り構造体。
【請求項２】
請求項１に記載の仕切り構造体であって、
前記上横材は、前記上横材側延出部と見込み方向に間隔を空けて前記他方側に設けられ、前記上桟が係合される上桟係合部を有していることを特徴とする仕切り構造体。
【請求項３】
請求項１または請求項２に記載の仕切り構造体であって、
前記下桟は、前記下横材と上下方向に間隔が空けられた状態で前記下横材に固定されていることを特徴とする仕切り構造体。
【請求項４】
請求項１乃至請求項３のいずれかに記載の仕切り構造体であって、
前記上横材は、前記一方側の見付け面をなす壁部の前記他方側に前記上横材側延出部が設けられており、前記壁部の下端は、前記上横材側延出部よりも下に位置していることを特徴とする仕切り構造体。
【請求項５】
請求項１乃至請求項４のいずれかに記載の仕切り構造体であって、
前記上桟には、前記仕切り部材が前記一方側から仕切り部材固定具により固定され、
前記延出部固定具と前記仕切り部材固定具とを覆うカバーが取り付けられていることを特徴とする仕切り構造体。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、上下に間隔を隔てて設けられている上横材及び下横材との間に、上桟及び下桟が固定されている仕切り部材が備えられている仕切り構造体に関する。
【背景技術】
【０００２】
上下に間隔を隔てて設けられている上横材及び下横材との間に、上桟及び下桟が固定されている仕切り部材でなるパネル体が備えられている仕切り構造体としては、たとえば、玄関や庭に設置する、縦格子タイプの仕切体が知られている（たとえば、特許文献１参照）。この仕切体は、上枠、下枠及び左右の縦枠によって形成した外枠の上枠及び下枠間に倹飩状に挿入したパネル体（面体）の上桟及び下桟がそれぞれ上枠及び下枠に固定されている。また、この仕切体では、外枠に倹飩状に挿入したパネル体は、下枠にパネル体を載置してパネル体の下桟を下枠にネジ止めしている。また、上枠に設けられている下向き開口の開口溝に倹飩状に挿入したパネル体の上桟と上枠との間に合成樹脂製のビードを圧入してパネル体を保持している。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】

【特許文献１】特開２００８－２７４６１１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
上記従来の仕切体は、上枠及び下枠間に倹飩状に挿入したパネル体の上桟と上枠との間に合成樹脂製のビードを圧入してパネル体の上部を固定しているので、下枠に、下方に湾曲するなどの変形が生じると、パネル体の位置が下がりビードが外れ、パネル体が枠体から外れる虞がある。また、倹飩状に挿入したパネル体と、上枠とは上下方向に間隔が空けられているので、パネル体の上部を上枠に上方に進入するビスにより固定することはできない。このため、水平方向に進入するビスにより固定するとビスの頭部が露出して意匠性が損なわれるという課題がある。
【０００５】
本発明は、かかる課題に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、意匠性を損なうことなく、パネル体が外れ難い仕切り構造体を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
かかる目的を達成するために本発明の仕切り構造体は、上下に間隔を隔てて設けられている上横材及び下横材と、前記上横材と前記下横材との間に配置され、空間を一方側と他方側とに仕切る仕切り部材、及び、前記仕切り部材が固定されている上桟及び下桟を備えたパネル体と、を有し、前記上横材は、前記一方側に設けられ前記他方側に向かって低くなる傾斜をなして延出された上横材側延出部を有し、前記上桟は、前記一方側に設けられ当該一方側に向かって高くなる傾斜をなして延出された上桟側延出部を有し、前記上桟側延出部は、前記上横材側延出部と重なり、延出部固定具により接合されていることを特徴とする仕切り構造体である。
【０００７】
このような仕切り構造体によれば、パネル体の上桟に設けられている上桟側延出部が上横材に設けられている上横材側延出部と重なるので、上横材を基準にしてパネル体を位置決めすることが可能である。このため、視認されやすいパネル体の上側にて位置決めされるので、パネル体を複数並べる場合であっても、上側におけるばらつきが小さいため意匠性に優れている。また、上横材の一方側に設けられ他方側に向かって延出された上横材側延出部と、上桟の一方側に設けられ当該一方側に向かって延出された上桟側延出部とが、延出部固定具により接合されているので、延出部固定具は、見込み方向からは視認されにくい。このため、より意匠性に優れている。
【０００８】
また、上横材の上横材側延出部と上桟の上桟側延出部とが延出部固定具により接合されているので、パネル体は上横材に支持される。このため、たとえ下横材が下方に湾曲するように変形したとしてもパネル体が外れない。このように、意匠性を損なうことなく、パネル体が外れ難い仕切り構造体を提供することが可能である。
さらに、上横材の上横材側延出部は他方側に向かって低くなる傾斜をなし、上桟の上桟側延出部は一方側に向かって高くなる傾斜をなしているので、一方側から延出部固定具により容易に接合することが可能である。
【０００９】
かかる仕切り構造体であって、前記上横材は、前記上横材側延出部と見込み方向に間隔を空けて前記他方側に設けられ、前記上桟が係合される上桟係合部を有していることを特徴とする。
このような仕切り構造体によれば、パネル体の一方側が上横材の上横材側延出部と接合され、他方側が上横材の上桟係合部に係合されるので、パネル体をより安定させて、上横材にて支持することが可能である。
【００１０】
かかる仕切り構造体であって、前記下桟は、前記下横材と上下方向に間隔が空けられた

状態で前記下横材に固定されていることを特徴とする。
このような仕切り構造体によれば、下桟と下横材とは上下方向に間隔が空けられているので、パネル体の上下方向の位置は下横材により規制されない。このため、パネル体の上部側にて位置決めし、上下方向の寸法における製品ばらつきを下端側にて吸収することが可能である。また、下桟は下横材に固定されているので、パネル体をより安定した状態で保持することが可能である。
【００１１】
かかる仕切り構造体であって、前記上横材は、前記一方側の見付け面をなす壁部の前記他方側に前記上横材側延出部が設けられており、前記壁部の下端は、前記上横材側延出部よりも下に位置していることを特徴とする。
このような仕切り構造体によれば、上桟側延出部と延出部固定具により接合される上横材側延出部が設けられている壁部は、下端が当該上横材側延出部よりも下に位置しているので、上桟側延出部と上横材側延出部とを接合している延出部固定具は壁部により一方側からより見え難くい。このため、より意匠性に優れている。
【００１２】
かかる仕切り構造体であって、前記上桟には、前記仕切り部材が前記一方側から仕切り部材固定具により固定され、前記延出部固定具と前記仕切り部材固定具とを覆うカバーが取り付けられていることを特徴とする。
【００１３】
このような仕切り構造体によれば、仕切り部材を上桟に固定する仕切り部材固定具も、上横材側延出部と上桟側延出部とを接合する延出部固定具も、上桟に取り付けられているカバーにより覆われるので、さらに意匠性に優れた仕切り構造体を提供することが可能である。
【発明の効果】
【００１４】
本発明によれば、意匠性を損なうことなく、パネル体が外れ難い仕切り構造体を提供することが可能である。
【図面の簡単な説明】
【００１５】
【図１】本発明の仕切り構造体の一例をなす縦格子ユニットを外側から見た正面図である。
【図２】縦格子ユニットを示す縦断面図である。
【図３】縦格子体の構成を示す縦断面図である。
【図４】縦格子ユニットの施工方法を示す図である。
【図５】上桟の固定手順を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００１６】
以下、本発明の一実施形態に係る仕切り構造体について図面を参照して説明する。
本実施形態においては、図１、図２に示すように、例えば宅地と道路との境界に設けられて空間を仕切る仕切り構造体としての自立式の縦格子ユニットを例に挙げて説明する。
【００１７】
本実施形態の縦格子ユニット１は、互いに間隔を隔てて立設された２本の柱１１及び２本の柱１１の上端部間に掛け渡された上横材としての桁１２を有する門型のフレーム１０と、２本の柱１１の下端側に掛け渡された下横材としての下胴縁２と、桁１２と下胴縁２との間に設けられ、仕切り部材としての格子材３０を備えたパネル体としての格子体３と、格子体３の上部及び下部を宅地側から覆う上カバー４及び下カバー５と、を有している。
【００１８】
以下の説明においては、立設されている状態の縦格子ユニット１を道路側から見たときに、上下となる方向を上下方向、左右となり縦格子ユニット１の幅方向を左右方向、左右

方向と直交する方向を奥行き方向として示す。縦格子ユニット１の各部位であっても、また、縦格子ユニット１を構成する各部材については単体の状態であっても、立設されている状態にて上下方向、左右方向、奥行き方向となる方向にて方向を特定して説明する。

【００１９】

柱１１は、断面が矩形状をなし長手方向に貫通する中空部を有する角パイプ状の部材であり、互いの一つの側面１１ａが対面するように配置されている。桁１２は、柱１１の対面する側面１１ａの上端部間に架け渡されて連結されている。

【００２０】

桁１２は、長手方向に中空部を有する桁本体１３と、桁本体１３に固定されて格子体３の上部側が固定される固定部材１４と、を有している。以下の説明においては、格子材３０により仕切られる空間の一方側に相当する宅地側を内側、他方側に相当する道路側を外側として説明する。

【００２１】

桁本体１３は、断面が矩形状をなし長手方向に貫通する中空部を有する角パイプ状の桁基幹部１３ａと、桁基幹部１３ａの長手方向に沿い鉛直面をなす両側の側板部１３ｂと繋がって桁基幹部１３ａの下面１３ｃを形成する基幹下板部１３ｄより下方に延出された桁垂壁部１３ｅと、を有する押出成形部材である。

【００２２】

桁垂壁部１３ｅの下部には、互いに対向する側に突出片１３ｆが設けられている。突出片１３ｆは、各々の桁垂壁部１３ｅに、上下方向に僅かに間隔を空けて２つ設けられており、内側の桁垂壁部１３ｅに設けられた上側の突出片１３ｆは、固定部材１４の位置決め部をなし、外側の桁垂壁部１３ｅに設けられた上側の突出片１３ｆは、格子体３の上部が係合される上桟係合部をなしている。

【００２３】

固定部材１４は、桁基幹部１３ａの基幹下板部１３ｄに対面して固定される固定板部１４ａと、固定板部１４ａの一方側の縁から垂設され内側の桁垂壁部１３ｅに沿って配置される固定縦壁部１４ｂと、固定縦壁部１４ｂの下縁から外側に向かって低くなるように傾斜しつつ延出された上横材側延出部としての桁側延出部１４ｃと、を有している。

【００２４】

固定部材１４は、固定縦壁部１４ｂの下縁が、桁本体１３の内側の桁垂壁部１３ｅに設けられた上側の突出片１３ｆ上に載置された状態で、固定板部１４ａが基幹下板部１３ｄと対面し、下方から進入するビスにより桁本体１３に固定されて桁本体１３とともに桁１２をなしている。固定部材１４が桁本体１３に固定された状態で、内側の桁垂壁部１３ｅの下端１３ｇは、桁側延出部１４ｃよりも下に位置している。ここで、内側の桁垂壁部１３ｅが、桁の一方側の見付け面をなす壁部に相当する。

【００２５】

下胴縁２は、長手方向に貫通する中空部を有する中空部材であり、上下方向に間隔を空けて対向する胴縁上板部２ａ及び胴縁下板部２ｂと、胴縁上板部２ａと胴縁下板部２ｂとの外側の縁を繋ぐ胴縁外板部２ｃと、胴縁上板部２ａと胴縁下板部２ｂとの内側の縁を繋ぐ胴縁内板部２ｄと、胴縁外板部２ｃと繋がって胴縁上板部２ａより上方に延出された胴縁外側延出片２ｅと、を有している。胴縁内板部２ｄは、上側部分２ｆが下側部分２ｇよりも外側に位置するような段部を有している。

下胴縁２は、柱１１の対面する側面１１ａの下端部側に、例えばアングル材などの連結部材６を介して連結されている。

【００２６】

格子体３は、図３に示すように、中空の角パイプ状をなす複数の格子材３０と、複数の格子材３０の上端部が固定される上桟３１と、複数の格子材３０の下端部が固定される下桟３２と、を有している。上桟３１及び下桟３２は、押出成形部材であり、互いに上下に間隔を隔ててほぼ平行をなすように配置される。複数の格子材３０は、上桟３１及び下桟３２の長手方向に適宜間隔を空けてほぼ平行に並べて配置され、各々の上端部が上桟３１

に内側から仕切り部材固定具としてのビス３ａにより固定されており、各々の下端部が下桟３２に内側からビス３ａにより固定されている。

【００２７】

上桟３１は、各格子材３０の内側の面が当接される鉛直面でなる上桟内壁部３１ａと、上桟内壁部３１ａの上部側の部位から外側に延出された上桟平面部３１ｂと、上桟平面部３１ｂの外側の端部側に設けられた上桟外係合片３１ｃと、上桟内壁部３１ａの内側に突出し上カバー４が係止される上下の上カバー係止部３１ｄ、３１ｅと、上桟内壁部３１ａの上側の上カバー係止部３１ｄよりも上に設けられ固定部材１４の桁側延出部１４ｃに固定される上桟側延出部３１ｆと、を有している。

【００２８】

上桟平面部３１ｂは、各格子材３０の上端部に当接される板状の部位であり、取り付けられた格子材３０の上側の小口を覆うように構成されている。上桟外係合片３１ｃは、上桟平面部３１ｂから上方に突出し、桁本体１３の外側の桁垂壁部１３ｅに設けられた上側の突出片１３ｆと係合する。上側の上カバー係止部３１ｄは、上桟内壁部３１ａに対して上桟平面部３１ｂと反対側に突出させて設けられており、下側の上カバー係止部３１ｅは、上桟内壁部３１ａの下縁から内側に突出させて設けられている。

【００２９】

各格子材３０は、上側の上カバー係止部３１ｄと下側の上カバー係止部３１ｅとの間にてビス３ａにより固定されている。上桟側延出部３１ｆは、上桟内壁部３１ａから内側に向かって高くなるように傾斜しつつ延出されている。上桟側延出部３１ｆの傾斜角度は、桁側延出部１４ｃの傾斜角度とほぼ一致している。

【００３０】

下桟３２は、下胴縁２の胴縁内板部２ｄにおける上側部分２ｆに内側から当接される下桟内側壁部３２ａと、下胴縁２の胴縁外側延出片２ｅの内側にて当該胴縁外側延出片２ｅと対向する下桟外側壁部３２ｂと、下桟内側壁部３２ａの上縁と下桟外側壁部３２ｂの上縁とを繋ぎ水平面を形成する下桟平板部３２ｃと、下桟平板部３２ｃから上方に延出され各格子材３０の内側の面が当接される鉛直面でなる下桟上方延出部３２ｄと、を有している。

【００３１】

下桟上方延出部３２ｄの上端には、内側に延出された上側の下カバー係止部３２ｅが設けられており、下桟平板部３２ｃの下桟上方延出部３２ｄよりも内側には上方に突出する下側の下カバー係止部３２ｆが設けられている。また、下桟平板部３２ｃの内側の端部には下カバー５が載置されるカバー載置部３２ｇが設けられている。各格子材３０は、上側の下カバー係止部３２ｅと下側の下カバー係止部３２ｆとの間にてビス３ａにより固定されている。

【００３２】

上桟３１及び下桟３２に複数の格子材３０が固定された格子体３は、上桟外係合片３１ｃが外側の桁垂壁部１３ｅに設けられた突出片１３ｆに係合された状態で、桁側延出部１４ｃ上に上桟側延出部３１ｆが重ねられて内側の下方から斜めに進入する延出部固定具としてのビス７により接合されることにより上桟３１が桁１２に固定されている。また、下桟の３２の下桟内側壁部３２ａが下胴縁２の胴縁内板部２ｄに内側から外側に向かって進入するビス８により接合されることにより下桟３２が下胴縁２に固定されている。

【００３３】

上カバー４は、外側に上桟３１に設けられた２つの上カバー係止部３１ｄ、３１ｅに係止される被係止部４ａ、４ｂを有している。上カバー４は、被係止部４ａ、４ｂが上カバー係止部３１ｄ、３１ｅに係止されることにより、２つの上カバー係止部３１ｄ、３１ｅの間及び桁本体１３の内側の桁垂壁部１３ｅの下端と上側の上カバー係止部３１ｄとの間が覆われる。このとき、格子材３０を上桟３１に固定するビス３ａ及び桁側延出部１４ｃと上桟側延出部３１ｆとを接合するビス７も上カバー４により覆われている。

【００３４】

下カバー５は、外側に下桟３２に設けられた２つの下カバー係止部３２ｅ、３２ｆに係止される被係止部５ａ、５ｂを有している。下カバー５は、被係止部５ａ、５ｂが下カバー係止部３２ｅ、３２ｆに係止されることにより、上側の下カバー係止部３２ｅから下桟内側壁部３２ａの下端を内側から覆うように構成されている。このとき、格子材３０を下桟３２に固定するビス３ａ及び下桟内側壁部３２ａと胴縁内板部２ｄとを接合するビス８も下カバー５により覆われている。

【００３５】

本実施形態の縦格子ユニット１の施工方法は、図４（ａ）に示すように、立設されたフレーム１０に下胴縁２が設けられている状態で、上桟３１及び下桟３２に複数の格子材３０が固定されている格子体３が取り付けられる。このとき、固定部材１４は、桁本体１３に固定されている。

【００３６】

図４（ｂ）、図５（ａ）に示すように、まず、格子体３を内側から、上部側が下部側より外側に位置するように傾けた状態で、桁１２と下胴縁２との間に移動しつつ、上桟側延出部３１ｆを桁側延出部１４ｃと外側の桁垂壁部１３ｅとの間に挿入する。

【００３７】

次に、図５（ｂ）に示すように、上桟側延出部３１ｆを桁側延出部１４ｃの上方に移動させ、桁側延出部１４ｃの先端を上桟側延出部３１ｆと上側の上カバー係止部３１ｄとの間に挿入させる。

【００３８】

次に、図４（ｃ）に示すように、格子体３の下部を外側に移動させて格子体３の姿勢が鉛直になるように格子体３を回転させる。このとき、格子体３は、フレーム１０に固定された後の位置よりも内側に配置されている。このとき、上桟側延出部３１ｆが桁側延出部１４ｃ上に重なる。

【００３９】

次に、図５（ｃ）、図５（ｄ）に示すように、格子体３を桁側延出部１４ｃの傾斜に沿わせて外側に移動し、上桟外係合片３１ｃを外側の桁垂壁部１３ｅに設けられた突出片１３ｆに係合させる。この状態で、格子体３は、桁側延出部１４ｃと外側の桁垂壁部１３ｅに設けられた突出片１３ｆとにより仮支持される。また、このとき、図４（ｃ）下桟３２は上下方向において下胴縁２と間隔を空けた状態で、下桟内側壁部３２ａが胴縁内板部２ｄの上側部分２ｆに内側から当接される。

【００４０】

次に、桁側延出部１４ｃと、桁側延出部１４ｃ上に重なっている上桟側延出部３１ｆとを内側の下方からビス７を斜めに進入させて接合し、下桟内側壁部３２ａと胴縁内板部２ｄとを内側からビス８を外側に向かって進入させて接合する。

【００４１】

最後に、図３、図４（ｄ）に示すように、上カバー４の被係止部４ａ、４ｂを上カバー係止部３１ｄ、３１ｅに係止して上カバー４を取り付け、下カバー５の被係止部５ａ、５ｂを下カバー係止部３２ｅ、３２ｆに係止して下カバー５を取り付け、縦格子ユニット１の施工が完了する。

【００４２】

本実施形態の縦格子ユニット１によれば、格子体３の上桟３１に設けられている上桟側延出部３１ｆが桁１２を構成する固定部材１４に設けられている桁側延出部１４ｃの上に重なっており、下桟３２と下胴縁２とは上下方向に間隔が空けられている。このため、格子体３の上下方向の位置は下胴縁２により規制されないので、格子体３の上桟３１を基準にして位置決めすることが可能である。このため、視認されやすい格子体３の上側にて位置決めされるので、格子体３を複数並べる場合であっても、ばらつきが小さいので意匠性に優れている。また、桁１２の内側に設けられ外側に向かって延出された桁側延出部１４ｃと、上桟３１の内側に設けられ内側に向かって延出された上桟側延出部３１ｆとが、桁側延出部１４ｃ側からビス７により接合されているので、ビス７は、見込み方向からは視

認されにくい。このため、より意匠性に優れている。

【００４３】

また、桁１２の桁側延出部１４ｃと上桟３１の上桟側延出部３１ｆとがビス７により接合されて格子体３は桁１２に支持されているので、たとえ下胴縁２が下方に湾曲するように変形したとしても格子体３は外れない。更に、下桟３２は下胴縁２に固定されているので、格子体３をより安定した状態でより強固に保持することが可能である。このため、意匠性を損なうことなく、格子体３が外れ難い縦格子ユニット１を提供することが可能である。

また、桁１２の桁側延出部１４ｃは外側に向かって低くなる傾斜をなしているので、格子体３を取り付ける際に、上桟３１の上桟側延出部３１ｆを、桁側延出部１４ｃと外側の桁垂壁部１３ｅとの間に容易に挿入することが可能である。

【００４４】

また、上桟側延出部３１ｆを桁側延出部１４ｃ上に重ねた後に、格子体３を桁側延出部１４ｃの傾斜に沿わせて外側に移動して上桟外係合片３１ｃを突出片１３ｆに係合させるので、桁側延出部１４ｃをガイドとして格子体３を移動させることが可能である。このため、上桟外係合片３１ｃを突出片１３ｆに容易に係合させることが可能である。

【００４５】

さらに、桁１２の桁側延出部１４ｃは外側に向かって低くなる傾斜をなし、上桟３１の上桟側延出部３１ｆは内側に向かって高くなる傾斜をなしているので、ビス止めの工具等が格子体３に妨げられることなく、内側の下方からビス７を斜めに進入させて容易に且つ確実に接合することが可能である。このとき、格子体３は、桁側延出部１４ｃと突出片１３ｆとにより仮支持されているので、格子体３をより安定させることが可能であり、作業者が格子体３を支えつつビス止めする必要はない。このため、施工性に優れた縦格子ユニット１を提供することが可能である。

【００４６】

また、上桟側延出部３１ｆとビス７により接合される桁側延出部１４ｃを有する固定部材１４の固定縦壁部１４ｂが沿わされる桁本体１３の内側の桁垂壁部１３ｅは、下端１３ｇが桁側延出部１４ｃよりも下に位置しているので、上桟側延出部３１ｆと桁側延出部１４ｃとを接合しているビス７が桁垂壁部１３ｅにより内側からより見え難くい。このため、より意匠性に優れている。

【００４７】

また格子材３０を上桟３１に固定するビス３ａも、桁側延出部１４ｃと上桟側延出部３１ｆとを接合するビス７も、上カバー４により覆われるので、さらに意匠性に優れた縦格子ユニット１を提供することが可能である。

【００４８】

上記実施形態においては、桁側延出部１４ｃ上に上桟側延出部３１ｆを重ねて内側の下方からビス７にて接合している例について説明したが、これに限らず、上桟側延出部を桁側延出部の下側に重ねて接合しても構わない。

上記実施形態においては、仕切り部材として縦の格子をなす格子体３を用いた例について説明したが、これに限らず、面材、フェンスなど、空間を一方側と他方側とに仕切る部材であれば構わない。

【００４９】

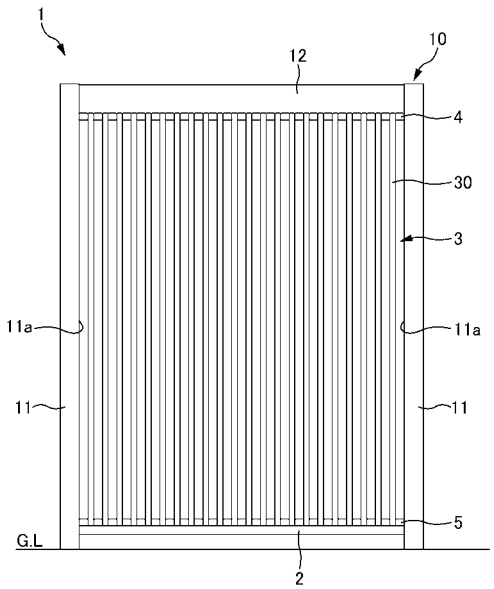
また、上記実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれることはいうまでもない。

【符号の説明】

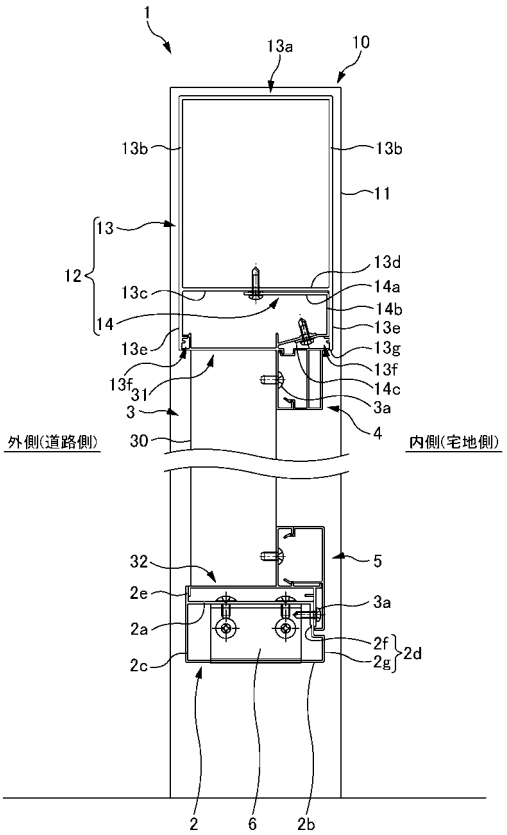
【００５０】

１　縦格子ユニット、２　下胴縁、３　格子体、３ａ　ビス、４　上カバー、
７　ビス、１２　桁、１３ｅ　桁垂壁部、１３ｆ　突出片、１４ｃ　桁側延出部、
３０　格子材、３１　上桟、３１ｆ　上桟側延出部、３２　下桟、

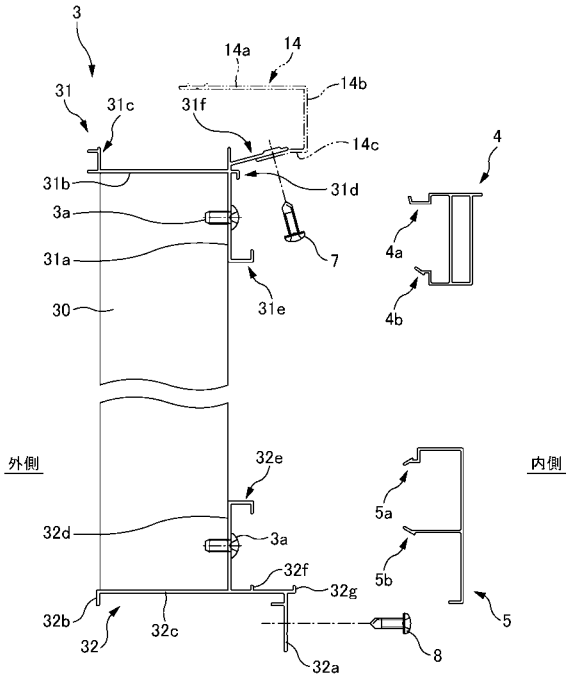
【図１】


1
12
10
4
30
3
11a
11a
11
11
5
G.L
2

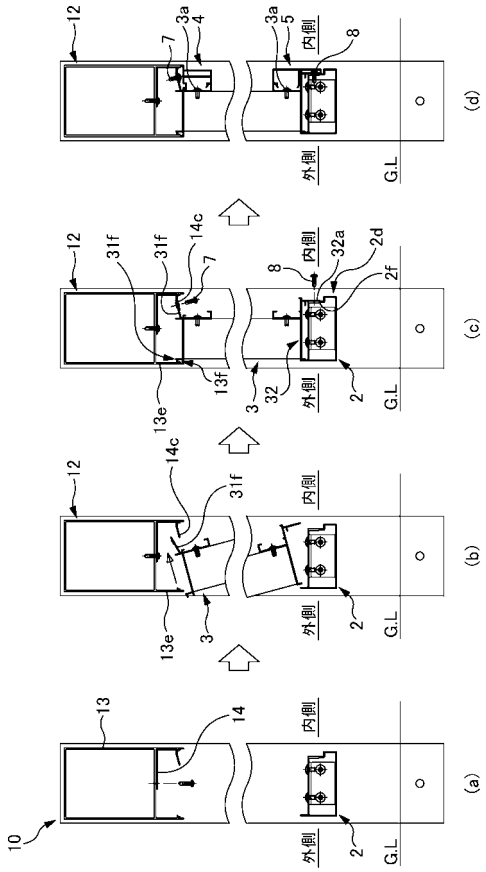
【図２】


1
13a
10
13b
13b
11
13
12
13d
13c
14a
14b
14
13e
13e
13g
13f
13f
31
14c
3
3a
4
外側(道路側)
30
内側(宅地側)
32
5
2e
3a
2a
2f
2d
2g
2c
2
6
2b

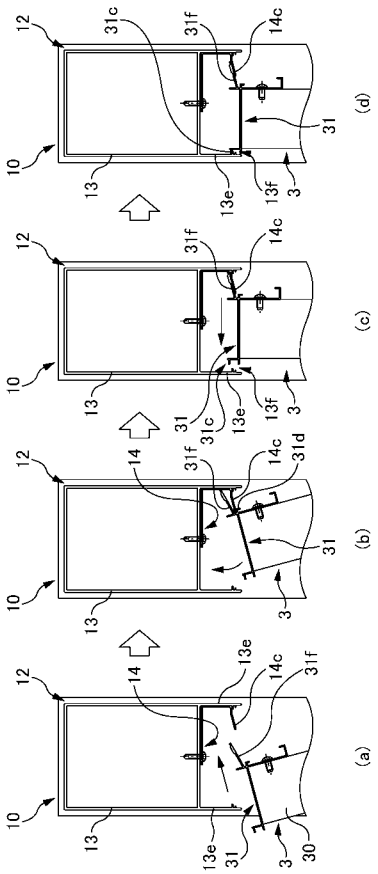
【図３】


3
14a
14
14b
31
31c
31f
14c
4
31b
31d
3a
4a
7
31a
31e
30
4b
外側
32e
内側
5a
32d
3a
32f
32g
5b
32b
32
32c
5
8
32a

【図４】


12
7
3a
4
3a
5
内側
8
外側
G.L
(d)
12
31f
31f
14c
7
8
内側
32a
2d
2f
13f
13e
3
32
外側
2
G.L
(c)
12
14c
31f
13e
3
外側
2
G.L
(b)
13
14
内側
10
外側
2
G.L
(a)

【図５】


12
31c
31f
14c
31
10
13
13e
13f
3
(d)
12
31f
14c
10
13
31
31c
13e
13f
3
(c)
12
14
31f
14c
31d
31
10
13
3
(b)
12
14
13e
14c
31f
10
13
13e
31
3
30
(a)

フロントページの続き

(72)発明者　丸山　剛
東京都千代田区神田和泉町１番地　ＹＫＫ　ＡＰ株式会社内

Ｆターム(参考) 2E142 DD02 DD06 DD09 DD13 DD23 DD32 DD34 HH01 HH13 HH22